

3.11を忘れない

INORINO KIZUNA

祈りの糸

第28号

2014年10月22日 全国発送

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会 <http://www.bapren.jp>

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881

宗教法人日本バプテスト連盟総務部

世界教会協議会中央委員会「声明：核から解放された世界へ」（その1）

原発課題班担当 濱野道雄

日本バプテスト連盟は東京電力福島第一発電所の起きた前、2008年の定期総会で「我が国の原子力行政を憂慮し「無核・無兵」社会を目指すことを求める声明」を採択しています。また日本基督教団では1987年の「「日本国政府の核政策」に対する日本基督教団声明」等、やはり核兵器と核発電=原子力発電の結び付きを指摘し、批判する声明を出しています。日本カトリック正義と平和協議会も2010年に「原子力発電は“温暖化”防止の切り札ではない！ 地球上の生命環境にとって最悪の選択…」というリーフレットを作成する等、同様の批判をしています。それらの預言者的声にもかかわらず、原発事故が起きました。その後、多くの日本のキリスト教派は脱原発を訴える声明を出してきました。そして今年の7月7日付で、世界教会協議会（WCC）中央委員会が「声明：核から解放された世界へ」という声明を発表しました。世界中のキリスト教会が、その信仰的理由から、脱原発、脱核へむけて声をあわせ始めています。

東日本大震災被災地支援委員会原発課題班も、これらの信仰的声明とその祈りを共にして、医師による健康診断、保養プログラム、引越しサポート、計測と「除染」等、その具体的な歩み続けています。長く続けざるを得ないこの働きを理解してお支え頂くために、また原発再稼働が迫る今、皆様の教会でも考え、各地から祈りの声をあげて頂くための一助として、WCCの声明文から、特に信仰的理由と具体的提言を記した部分を3回にわたり掲載させて頂きます（違う訳文ですが、日本語訳全文「核のない世界に向けた声明」を日本バプテスト連盟のホームページから読むことができますので、ぜひお読み頂ければ幸いです。<http://www.bapren.jp/uploads/photos/718.pdf>）

世界教会協議会中央委員会「声明：核から解放された世界へ」より抜粋

（D. マッキントッシュ、川上直哉訳）

正義と平和の巡礼としての、核からの脱出

神は惜しみなく与える創造者です。神は、原子・分子のレベルから生命を呼び出して世界に豊かないのちを授ける方です。したがって、原子を分解して、死を呼ぶような、自然界に存在しない元素を産み出すことそれ自体について、深刻な倫理的・神学的省察が求められるのです。命を脅かし破壊するような原子力の使い方、それは神の被造物の誤用であり、罪深いことです。

私たちに求められる生き方とは、いのちを守ることです。生命をリスクにさらすことではありません。恐怖しながら核兵器（原水爆）で身を守って生きることも、核（原子力）エネルギーに頼つて無駄遣いの中に生活することも、いのちを守ることではありません。私たちは、今、呼びかけられています——神の多様な賜物と生命の約束と調和を見なさい、その内に共同体を形成なさい、そしてそこで経済を成り立たせなさい、と。

1990年代に、北部カナダに住むサートゥ・デネの人々は、数名の長老たちを代表として日本に送り、謝罪を行いました。自分たちの大地から採掘されたウランが1945年に広島と長崎を破壊した原爆に用いられたことを知ったからです。私たちも、信仰の証しとして、次のような行動をとります。

- 軍備とエネルギーについて評価（判断）するときには、それらが人と神の被造物にどんな影響をもたらすかを、その基準とする。
- 物質的な快適さや利便性を求める私たちの欲望のために、私たちは、自分が使っているエネルギーの源と分量がどうなっているのかを考えなくなってしまった。このことを、告白する。
- 核兵器（原水爆）を保持することへの一切の支持を棄てる。「自己の安全を保障するために、他所の人々への大量虐殺が許される」といった理屈を、はつきり拒否する。（次号に続く）

継続している被災地支援活動

現地支援委員会では継続して次の仮設住宅及び在宅者への訪問支援を行っています。

岩手県

- 野田村支援
- 大槌町安渡、小鎌第四、小鎌第七
仮設住宅支援

宮城県

- 気仙沼支援
- 南三陸町戸倉支援
- 石巻市元浦屋敷支援
- 石巻市牡鹿半島支援
- 亘理町長瀬・吉田支援

福島県

- 郡山市緑ヶ丘仮設住宅支援
 - 福島市ぶら市仮設住宅支援
- 8月に活動を紹介するDVDを作成し、教会・伝道所にお送りしました。現在もなお支援の輪が求められています。DVDでは上記の支援活動の様子を紹介しています。



苦難の中から主に助けを求めて叫ぶと 主は彼らを苦しみから救ってくださいました。
主はまっすぐな道に彼らを導き 人の住む町に向かわせてくださいました。
詩編 107: 6-7

2014年度募金目標：1,400万円

2014年度の募金は以下の2つの活動のために重点的に使われます

① 現地の教会による被災された方々への支援活動

② 原発事故による健康被害防止の取組み

日本バプテスト連盟東日本大震災被災地支援委員会

お問い合わせ：Tel 048-883-1091 または jbcsign@bapren.jp

募金口座：[振替>00140-9-180881](http://www.bapren.jp/uploads/photos/718.pdf) 宗教法人日本バプテスト連盟總務部

2014年度一般募金目標額

：1400万円

9月実績544万円

アト856万円

目標までの不足額 856万円

<8月、9月募金者（受付順、敬称略）>

31名（口）の方々から献げられました。

奈良、福間、伊集院、鮫、調布、中野、平尾、久保祐子、西南学院高等学校生徒会、関西黎明、宇都宮、大宮、大井、鹿児島、古賀、大分、恵泉、佐世保、日立、中野、シオン山、調布、高須、南光台、西関東地方連合女性会、相浦光、古賀、大村古賀島、鹿児島、赤塚、愛の園保育園

<2014年度活動計画（補正予算案）> （募金は以下の活動に使用されます）

活動項目

予算額

被災地教会活動支援

（現地支援委員会による仮設及び在宅被災者訪問支援経費）

850万円

遠野VCによる被災地域支援

（遠野VC原状回復・撤収費用、東北外からのボランティア交通費支援）

190万円

原発課題への取組み～福島第一原発事故による被災者対応

（子ども避難保養プロジェクト、被ばくに伴う検診、「除染」等）

645万円

委員会機能（活動のためのスタッフ機能）

（国内・国外に対する広報活動、スタッフ人件費、諸経費）

349万円

合 計

2034万円

※活動には今年度募金に加え海外からの原発対応指定募金と前年度からの繰越金を充当する計画です。